

岩屋山 観音たより

発行所：和歌山県
海草郡下津町橋本一〇六五
福勝寺内

編集人：本多碩峯
電話：(073)7494103

孫の手を杖つく足に

若返り

栄え富まん

常楽の園

碩峯作



同窓生 立石依子作 木造彫刻『聖観音』

真理の花たば



『一真浄(いっしんじょう)を
簡(えん)ぶ』

まことは清浄なところにあり、
清浄なところに真実がある。

弘法大師講本部・四国六番安楽寺
住職・畠田秀峰師書

祝 ワールドカップ・

サッカー大会で世紀の一勝

昨夜、テレビを通して国民が日本
チームに声援を送り、その勝利に感
動した。

チームの選手には勿論のこと、ト
ルシエ監督にもエールを送りたい。
是非とも悲願の決勝進出を祈念した
い。

鑑真和上を想つ

日本のサッカー界に全く暗い者で
すが、トルシエ監督への噂を耳にす
るにつけ、奈良時代の鑑真和上に對
する日本仏教界の行為がトルシエ監
督に対する思いに重ねあつて観える。

明日の装を提案します!

寝装・和装・洋装・総合繊維卸

株式会社 マスメン

代表取締役 増田都司夫

本社

〒640-8376 和歌山市新中通 2 丁目 8

TEL (073)424-4466 (代表) FAX (073)436-6508

豊 かなまちづくりに参加しま す!

株式会社 田淵建築設計事務所

代表取締役 木田耕藏

本社

〒640-8287 和歌山市築港 4 丁目 2-1

TEL(073)431-0261(代表) FAX(073)431-3898

今回のワールドカップ大会を機会に日本人特有の資質を検証したい。
「あをによし奈良の都は咲く花のほほむがごとく今盛なり」

しかし当時の日本には「戒律」(仏教徒が守らなければならない規律)を指導する師僧が居りませんでした。戒律の遵守を誓う儀式を「授戒」といい、正式に行うには一〇人の高僧が立会います。そこで唐より授戒の師僧を招聘する宗叡・普照といふ若い二人の僧侶に下り七三三年遣唐使船で唐へと旅立ったのです。

唐に到着した宗叡・普照は都に集まる多種多様な大勢の人々や進んだ文化、見たこともない品々など驚くことばかりでした。二人はまず、日本に伝わっていない經典の修字や書写に没頭しました。日唐は流れ、唐へ渡って一〇年が過ぎる頃帰国準備を始めました。

授戒の師僧を探して日本へお連れしなければなりません。ある日知人から鑑真和尚を紹介して頂くことになり、早速和上が講義をしている大明寺に向かったそうです。一人は日本仏教界の不備や乱れを話し、窮状を訴えました。そしてお弟子の中から戒律を授けることが出来る方に「日本まで

来て頂きたいと懇願したのです。和上に一任するとの勅を言いました。

一方、今日、国内に日本のサッカー界を世界のレベルに到達させる為の指導者が我が国にいないことに悩み、ヨーロッパのサッカー先進国に指導者を求めて外国に、関係者からトルシエ監督を紹介され、日本人に日本の関係者が招聘を懇願されたと思われる。

「昔日本の長屋王が中国の僧侶へ西面の袈裟を贈りました。その袈裟の端には『山異域 風日同天 喜請仏子 共益衆縁』(国王は異域が同じ仏弟子という立場で共に手を携えて進みましょう)と刺繍してあったといえます。

察するに日本は仏教が栄える素地が備わっていました。
「弟子たちよ、遙々やって来たこの二人の仏弟子と共に日本へ渡り、戒律の伝授を担う者は居らぬが、大勢の弟子達に鑑真和尚は尋ねましたが一人も応える者はいませんでした。ややしばらくして祥彦といふ弟子が「日本は遙か遠く九死に一生を得ずと聞きます。私達は幸にも人として生まれ、また和上という立派な師僧に恵まれました。また和上のもので学ぶべきことが沢山残っています。それで黙黙しているのですよ。」

和上は一喝して「これは仏法興隆の為である。どうして身命を惜しんでいられようか。皆が行かぬのなら私が日本へ参りましょう。」と、こうして和上自ら渡海の決心をし

たのです。
その後和上が行かれるのならば二十数人が同行を決意して早速渡航準備に取りかかりました。
しかし唐では私的に国外へ船を出す事は許されず、ましてや戒律伝授の第一人者である鑑真和尚が密航するのは渡日に反対する者も居て、非常に困難なことでした。

初回の渡航計画では弟子の道抗と如海の仲がうまくいかず、未熟者と侮蔑された如海が官憲に、道抗が海賊と通じて密輸を計画している、と密告してしまいました。この事件から道抗だけでなく宗叡・普照(日本人)まで捕まり、船も没収されて船出をする前に計画は失敗に終わりました。

その後も幾度となく渡航を試みましたが、和上を日本へ向かわせたくない弟子の密告や、航海中の難破などなかなか海を渡る事ができません。七四八年五度目の時は、東シナ海に出たところで暴風に遭い、台湾より更に南方の海南島まで流されてしまいました。

陸路を揚州まで戻る途中、長期に渡る旅の疲労によるのか宗叡や祥彦といった和上側近の弟子達が亡くなり、和上自身も失明してしまつたのです。この漂流での損失は甚だしく、故郷に戻つた和上はまたしても次の機会を待つことになりました。

七五二年日本は約一〇年ぶりに遣唐使を派遣しました。今回の大使、藤原清河と大伴古麻呂らを副使とした一行は無事に海を渡り、七五三年正月に唐の玄宗皇帝拝賀の儀に臨みました。鑑真和尚の渡航が艱難続きであるのを知っている大使たちは公式に和上を日本へ招聘する交渉をしましたがうまくいきませんでした。これを不服とした副使の大伴古麻呂は、自らの船に一行をかくまって出航したのです。今回も暴風に見舞われましたが七五三年十一月、約四〇日の航海を経て無事鹿児島県津町秋目浦にたどり着きました。

この同行の中に一行の中で最も若い少年、和上の弟子・如宝がいた。彼は和上の死後、空海が入唐前に親しい間柄であった。
七五四年一月、平城京に入った和上一行は宰相・大臣らの出迎えを受けました。聖武上皇は大変お喜びになり、今後は授戒伝律を和上に一任するとの勅を言いました。

その年の四月、日本で初めての授戒会が東大寺大仏殿の前に設けられた戒壇にて催されました。聖武上皇や光明皇太后、孝謙天皇はすべて菩薩戒をお受けになり、さらに五〇〇人余りの僧侶があらためて和上に付いて受戒しました。

七五九年八月、和上は東大寺を出て新田部親王の旧宅地を賜り、戒律を伝

授する道場として寺を興しました。現在の「唐招提寺」がそれです。「招提」とは四方から人が集るといふ意味で、寺名どおり和上の元には三〇〇〇人も学僧が集りました。

後進の育成に努める事五年、七六三年五月六日(旧暦)多くの弟子に囲まれ、座して西を向き七六年の生涯を閉じました。しかし和上の精神は、そのお姿の生き写しといわれる御像と共に今も唐招提寺に伝わっているのです。

以来一千三百年我が日本仏教が最澄、空海をはじめ多くに優れた先人を生み出し、今日に至った功績が大きい。

サッカーと「個と全」(一即多)

何故これ程に国民の人氣が在るのだらうかとフト考えるに人の一生涯をサッカーの九十分置き換えサッカーの試合そのものが人生そのものようだ。

そこには喜びがあったり、感動があったり、失敗があったり、しかし戦いの最後に勝ち負けがあることは人の人生にも終わりが無いのかもしれない。

勝負の終わりは始まりでもある。高スピードの試合の中にはハイレベルの選手の技、選手間の連係プレー、しかも個人の技とチーム全体の連係プレーが一体となって進行する行為そのものが真に美的ともいえる勝負。

私にはこの相(すがた)を個と全が融合した一体の相と観(み)える。様々な素晴らしい文化と人種が同一の心で応援し、感動し、落胆する心を。

弘法大師空海の創造性の発揮!

副使石川道益が赤岸鎮の兵士十数人に護られ一日で往復して長慶の奥令に伺って船に帰ってくる。

その後、奥令の役人の訪問を受け、更なる。空海を含む百数十人の日本の遣唐使の中には数十人の病人がいる。福州への険しく、遠い道のりを歩くわけには行かない。と、日本側から申し出る。

話し合いの結果、病人は社知遠が居候する「松柏観」に留まることになった。日本の遣唐船には一人の通訳がいるが、一人は遣唐大使藤原葛野麻呂の通訳もう一人は副使石川道益の通訳、日本側から病人だけを残すのが可哀想だという話に、このとき社知遠はゆっくりと「言葉のわかる人がもう一人います」彼が骨相を観るために来ているので彼が口をひらいたのはこれだ、と、その一人は「その一人は?」

と、日本側の通訳は訊いた。社知遠は、すぐに答えなかった。通訳は彼の視線を追った。

持ちながら勝負が終われば明日への始まり。舍利塔や五輪塔が象徴する釈尊、大日如来の説法に集まる弟子達、その周りに集まる民衆の大集団の相のようだ。

そこには空海がいた。

「この僧ですか?」

通訳は首をかしげた。空海が唐の言葉解するなど、親友の橘逸勢以外のものは知らなかった。

骨相師の社知遠は日本の遣唐使船が漂着以来、毎日、岩上の「松柏観」から観察していたのです。その上、船上で、社知遠の遠慮ない方言を使い散らした演説に通訳以外に反応した人物は空海以外になかった。社知遠でないと見分けが出来ないごく自然な仕草であった。それを見抜いていたのです。

通訳は「貴僧、それはまことなのか?」と空海にむかって訊ねる。空海はしずかにつなずいた。口もとにチヨッピリ困惑の笑みをつかべている。

それから後、患者十数人を連れて「松柏観」に入り、社知遠と空海の遠慮のない自然な会話はじまる。

会話の中で道教道観に詳しい空海に感心する社知遠。会話に笑顔を浮か

ながら横たわる病人もいつの間にか緊張感から解放され笑顔を浮かべるようになる。

空海が社知遠をみて、「ごく最近この松柏観に住み着いたこと、相当山に登り修行の経験を積んでいることを察し、会話になる。社知遠も空海をみて、日本にはない道観に詳しく、この松柏観に靈感を感じ、正直に語る見事な言葉に感心する。

空海は私度僧として留学の許可を

年号	空海(宝龜5年生とす)	一般事項
延暦 3年	11歳	十一月、桓武帝長岡宮に移幸す
延暦 7年	15歳	阿刀大足に就学 長岡京遷都
延暦 10年	18歳	大学入学 ある日、沙門より求聞持法を授かる その後、大学を退学
延暦 13年	21歳	11月8日、平安京と称す
延暦 16年	24歳	12月1日 「三教指帰」成る
延暦 23年	31歳	入唐求法の旅 最澄と同じ船団 この間六年数ヶ月皆目消息不明

得て入唐したのであった。

空海は『二教指帰』巻下によると空海は少なくとも一人の兄がいたことになり、空海が二十四歳頃までに一人の兄が亡くなっている。

『高野大師御伝』によると、空海の幼名を真魚といひ、出生地は讃岐国多度津郡屏風ヶ浦だといふことになっている。また『二教指帰』序には十五歳で母方のオジ(叔父か伯父か不明)の阿刀大足氏について研鑽し、十八歳で大学に入つて学んだとある。

空海は幼少のころから阿刀氏について詩文章、儒学等漢籍を学び、大足はいわば空海の家教師のよつな役目を果たしていた。『御遺告』や『高野大師御伝』にも空海は十五歳のときに大足について学ぶため長岡京にのぼつた。

当時の学制は『大宝令』に定めるところに従つもので、大学は文武官の二品以上、郡県公子孫、従二品留孫の学生となるものを養成し、大学生としての入学資格は五位以上の子孫および東西の史部の子弟に限られていた。八位以上の子弟は特に願ひ出た場合許可された。また入学年齢は十二歳以上十六歳以下である。それに対して空海は地位も年齢も学制の入学資格を満たさない立場である。空海が十五歳で改めて大足に就学し本格的に勉学に打ち込み大学に入

学するための準備であつたとおもわれる。それから十八歳になつてようやく大学の明経道(経書科)に入り、必死に勉強を続けたのであつた。空海の父、田公の官位は低くまた入学年齢は遅きに失する空海である。

従つて空海のそれは正式な入学とはいひ難い。おそらく、大足の口添えがあり、その異常な素晴らしい研鑽振りか認められた上、特別入学(聴講生等)が許可されたのではなかつたのだろうか。

いずれにしても空海は大学において、かれは毛詩、左伝、尚書、左氏春秋等漢籍を学んだ。尚、空海は明経科に籍を置いたまま当時の中国語、唐語を学んでいる。

空海には学問的環境は十分にあつたが、仏教的なそれは希薄であつたとみられている。

同時代の最澄は幼少のころきわめて熱心な仏教信者である父に育てられ、十二歳で厳しい僧院の戒律生活に入つたことと比べると教育環境、生活環境のうえで大きな相違があるといわねばならない。

鎌倉時代の日蓮、道元、親鸞たちとは空海の教育、生活環境が大きく異なるのです。空海は仏教への道を選ぶ前に、儒教をやり道教をやつたのです。文学もやつており、書もやり、中国語を学び、さらに世間の空気も十二分に吸つ

ていた。空海の仏教は当初から極めて主体的であると同時に、円環的であり、屈折していて複雑であるのは若いころの教育、生活環境にも負つところがあるといふ。

空海の若き時代は十年間に二度も遷都(せんと・都を移すこと)が行われる激動の時代であつた。大学で刻苦勉強していた空海、その彼に突如として生涯の運命を決する出来事が起つたのであります。

『二教指帰』序で、空海はそのころを回想して次のように言っている。

現在訳文で、

(さて、一人の修行者がいて、わたしに求聞持法を教えてくれた。その修行の

典拠である『虚空藏菩薩求持聞法経』には次のようにある。『教えのとおり、この虚空藏菩薩の真言を百万遍唱えれば、あらゆる教法の文義をおぼえることができる』と。そこで、わたしはこれほげの真の言葉だから間違いないと信じて、木を擦つて火を出すように、少しも怠ることなく阿波国の大滝岳にのぼり、

よじ、土佐国の室戸崎で、この教えのとおり修行に励んだ。そうすると、谷はこたまし、明星が来たり現れるといったように、靈験があつた。とつとつ、都市の栄華がいつとき毎にいやになり、朝に夕に大自然のなかで生活することを願つよつになつた。軽やかな衣、肥えた馬と

いつた都会人士のぜいたくなくらしをみると、あれもたちまち消えゆく哀れなものだと思ひ、支離の様な不具なもの、懸鶉のようなみずみずしい貧乏人を見ると、どういふわけでそつなつたのかと悲しむばかりだつた。こつしたありさまを見るに及んで、わたしは出家しようと思つた。覚悟をきめたのである。()

求聞持法というのは虚空藏菩薩を本尊として、この菩薩の真言百万遍を百日間誦する苦行である。

空海が授かる一人の沙門(修行者)がはたして誰であるかが明確でないが、学者の研究で、『御遺告』によつて勤操(こんそう)から大学入学前に、

皆さんのスーパー



株式会社 **みち屋**
代表取締役 **道畑 勇**

本 部 和歌山市岩橋 7 2 9 番地の 6

TEL (073) 473-4197

松 島 店 和歌山市加納 2 4 6 番地の 1

TEL (073) 474 - 3500

貴志川店 那賀郡貴志川町大字北山 5 1 7 番地

TEL (0736) 64- 7020

(5)

大虚空蔵等ならびに能満虚空蔵の法呂をつけた。おそらく一人の沙門は勤操という事になった。

この勤操はこれより先、奈良時代に道慈と善議は入唐して、『大日経』の訳者として知られる善無畏三蔵(シユバカラ・シンハ)について親しく求持闍法を学び、帰朝後、これを勤操に伝えている。このような因縁があつて、『御遺告』の編者は求持持法の師を勤操としたものと一般に思われている。空海と勤操は法友として終生交際があつたが、勤操が求持持法の師であつたかどうかはその後の研究で非常に疑問視されている。

延暦四年(七八五)にも治部省符が陀羅尼を修す行法を禁止しているほどであり、当時「一人の沙門」といつているところを見ると、このように表現しているのは山林原野での修行をはばかつた時代の名残で、反体制的な一人の無名の仏者とみるのが自然である」と通説になっている。その「一人の沙門」に会つたという点からしても、空海の勉強の場所は新都長岡京より仏都奈良を想定されている。

尚、空海は「一人の沙門」との出会い以前の仏教的体験は、『御遺告』にかかげられている二つの夢告の内、一つは、幼少のころの空海の夢で、自分が生まれてまだ両親の家にいた五つ

六つのころ、夢の中で常に八葉蓮華の中に坐つて諸仏と語りあつたといつものであります。もつ一つは、空海の母に対する夢告である。空海が十一歳になつたとき、母の言葉として残つていてるものが、空海が生まれる前、夢の中に天竺国から聖僧が現れて、母の懐中に入るのを見たところ懐妊して生まれたといつのであります。このため、母はこの子はかつて仏弟子であつたであろう、いままた仏弟子としたいと述べたといつのである。

この夢告があり、その上「一人の沙門」との出会いがあり、官吏への道を絶つて(大学中退)、仏教への深い関心が虚空蔵菩薩求持闍法の修法に身を委ねることとなる。

小説『曼荼羅の人』に戻るのであるが、私度僧空海の原点についてお話しをしたのですが、空海は終生交際された勤操が空海が入唐するまでの師と仰ぐ一人であつたろう。

「松柏観」内で二人は楽しいやり取りの中で、空海に、

「唐には、はじめて来られたのですか?」

社知遠は訊いた。空海はつなずいて、

「そのとおりです」
「それにしては言葉が正しい。その上日本にない道教ことまでご存知ですね」
「書物の知識に過ぎません」

「いまこうして、唐の土を踏んでどんな感想をおもちですか?」

「たつたい大陸にあがつたばかりです」

「靈気をとらえることのできる心のもち主とみました。たつた今の感想だからこそ、よけいそれを知りたいのです。おわかりでしょうか、この地の政治がうまく行つていくかどうか、書物の上で得られ

たすがたと、いま目の前に見るすがたと、どちがうか、あなたに正直に言つてほしい」

「知ることがあなたの仕事でしょうが……」

そこまで言つて、空海は口を噤んで沈黙がつづいた。

沈黙を破つたのは、慌てふためき、飛び込んだきたのが船に残つていてる橘逸勢(たちばなのはやなり)であつた。

「空海よ、副使が字を書いてほしいと申しておる。船に戻ろう」

「おぬし、なぜ書かぬ?」

「わしは字だけなら、ことわることにしておる」

「仕方がない」

としいながら、蓆(むしろ)の床から腰をあげて、空海は笑つた。

遣唐使船の中で、空海と橘逸勢の二人は能筆の双璧と知られていた。副使は県へ出す文書の草稿を考え、それを空海に書かせよつとしていたのだ。逸勢は常曰(つねに)、「

「書物の知識に過ぎません」

石田裕之

関西に彗星のごとく現れる
シンガー・ソング・ライター!

現役の神戸大学法学部学生

ラジオ大阪(OCB・1314)

「ミュージック・ビッグ・パン」にDJで出演

毎土曜日 PM 9:30 ~

<http://www.insomnia.co.jp> CDのご注文は左記HPへ.....



Flowers(詩)

紅い朝日を背中に受けて 始まる一日の
家を目指して

時を忘れた日々の破片も つなぎあわせ
不器用なまま 強く輝く 確かな
種がここにある

ひとつひとつを大切に並べたら
いがいなくらいあたたかさに満ちていた

わしは自分の文章でなければ字は書かぬ。

と豪語していた。

「おぬしが悪い。気やすく筆をとるからだ」

と逸勢はやなりくは空海に言った。わしのように代筆は一切しないとい

う原則を立てておれば、このような面倒なことも頼まれないですむ」とい

う説教である。

遣唐使にえらばれるのは、世界の松舞台に立たせても、国の恥とならない人物であった。文藻(そつ)にすぐれ、そして容貌も端正な人物が任命される。文章については、大使の藤原葛野麻呂も副使の石川道益も、あるていどの自信はもっていた。

字のほつは、空海と逸勢(はやなり)といつのは定評があり、大使や副使も認めざるをえない。だから代筆を頼もうとする。しかし、文章の代作となれば自尊心が許さない。

「わたしはたゞ仏法者は、人の役に立つことは、よろこんでしなければならぬのだ」

空海は代筆の仕事をまったく気にかけていないようだった。

「空海に字だけといつのは、まったく勿体ない話だ。…書いていて、ばかばかしくなるだろう。下手な文章ばかりで本当に同情するよ。…」

逸勢はいい終えろと肩をすばめた。松柏観を後に逸勢の後ろについて空海はでてゆく。

「馬を見たかね、空海よ」

突然、後ろから声を掛けられる。もう一人の食客の老人、陸功造であった。

「馬っ」

ふり返って、小さな老人を見る。

「そつ、馬よ。このあたりの馬はどつかね?」その声に少しも老いの響きを少し

熊野古道は人類の潜在意識の顕れ! (三)

地蔵峰寺を後に次の目的地、岩屋山、福勝寺へ下り坂を下って百十八段の石段を山門にする。高野山真言宗、岩屋山、福勝寺は、高野山真言宗、金剛院、岩谷山、福勝寺と命名されています。

創建は大同年中(八〇六〜八一〇)弘法大師の開基と伝える。福勝寺旧紀によれば、昔は、寺領三町五反余を有したが、その後失い浅野氏から改めて日高郡衣奈浦で三石の寄付をつけ、徳川時代も引き継がれて橋本村で三石与えられた。正保四年(一六七四)に境内四至が定められ同帳には四方書および慶安元年(一六四八)の禁殺生制札の写しが記録されている。

また慶安三年藩主徳川頼宣が自身の守本尊虚空蔵菩薩を安置する、求聞持堂を創建した。現存する寛文二年(一六六二)の棟札に「福勝寺千手堂国主以喜繕且擁護六社の内大神宮并財天社同修之」とある。

もかんじなかった。

「日本で書物を読んだり、唐から帰った人の話を聞いたとき馬は田を耕すものとはかり思っておりまして。…けれど、この土地(唐)に限ったことかもしれませんが、牝(メス)馬はちっちゃな小馬を孕(はら)んでるように見えますね」と空海

空海たちが出て行った後、杜知遠と陸功造二人が互いに顔を見合わせるのであった。六年数ヶ月の生活の片鱗が…? 続く!

るが建物は様式上室町時代中期を下らな

重要文化財

いと津町史実の資料に書かれ、先年が生誕五百年祭を迎えた浄土真宗の高僧、蓮如上人が紀伊国熊野詣でと布教の旅を数度なされた時、宿舎として福勝寺が使われ、全国で唯一、高野山真言宗のお寺の境内に蓮如上人を記念して、浄土真宗のお堂「名号堂」があります。

浄土真宗 本願寺第八世 蓮如上人、熊野へ御参詣され、冷水浦の飯盛亭六太夫という方が晩年子供のないことに悲しみ、福勝寺のご本尊千手観世音菩薩に三十七日間毎日、冷水浦から塔下王子跡の地蔵峰寺に登って参り、坂を下って福勝寺に足を運びました。すると、即救世観世音が枕元にあらわれ、一枝の柳を受け賜いました。

その後、喜六太夫の妻が懐胎し、十



有限会社
代表取締役

ミヤタケ
宮下隆博

〒640-8329
和歌山市田中町4-119
TEL(073)422-2327 FAX(073)436-5598



人に優しい音声発生装置!

有限会社 日本メディテックス
代表取締役 山口昭昌

〒641-0054
和歌山市塩屋5丁目5番43
TEL(073)446-2009 FAX(073)446-3696

月十日をへて女子を生ず、その形みや
 びかにしてたぐいなく、その心さとし
 くして同稚にすぐれたり、幼より仏法
 を愛樂するならわせがあった。父母、喜
 び大きく、寵愛特に深くして掌中の珠
 を大切に養育せり、ところが十一歳
 の春、はからずも病の床にふし、遂に二
 月十八日の朝の露とともにきえうせて
 空しくなつて、父母の悲しみ限りなく
 野辺の送りを営み(弔い)十七日の速夜
 に当たり娘が召していた振り袖に黒髪
 を当寺、福勝寺に納め、その夜、宝前に
 て夢中に誦念し、少し眠気がさし、夢の
 中に娘の姿がありありと現れ、喜六太
 夫がわが娘の愛念の可愛さに、よく恋
 しく尋ねて来てくれたと取りすがろう
 とすると観世音の姿となつて消えてし
 まつた。

喜六太夫は奇異な夢から覚め十一年
 の親子の絆は救世観世音菩薩の方便に
 て可愛い娘が生きていると感涙にむせ
 び、悪路を越えて百ヶ日福勝寺の千手
 観世音菩薩参りをやり遂げ、法要を祈
 ること百夜満たす暁、救世観世音菩薩は
 喜六太夫に貴方は未来に向け解脱され
 る、他力念仏(仏他)を説く抄門・
 蓮如上人が明朝、藤白峠を越える故、
 貴方は抄門を迎えるべしと、聞き喜六
 太夫は歡喜に涙し、峠に迎え、救世觀
 菩薩のお告げを説明、蓮如上人熊野へ
 参拝の途中、隨喜の感深く、他力念仏

の法要を詳しく説き、喜六太夫、た
 ちどころに受得し、冷水浦のもの誰
 も聞いたことなく、喜六太夫は上人
 に熊野参拝の帰路是非小さな小屋の
 ような家ですがお泊まり下さいと申
 し上げる

と、上人快く受託され二十日後に藤
 白峠に迎え、ここより冷水浦への山の
 半腹に平地(鼓ヶ畑)あり、暫く、ここ
 で四方を眺望すること、南海渺々とし
 て天を兼ね、この遠近光景は極樂浄土、
 絵に写すことは難しい程の素晴らしさ
 で、詩にものべがたい、蓮如上人こ機
 嫌麗しく少謡を作り詠われました。

称えれば声のうちなる

極樂を遠しと人は思わん

念々相続する人は、

念々ことに往生す

三心のしなとも

称名のうちを離れず

唯よしあしをはからわす

行住座臥なれや

南無阿弥陀仏 阿弥陀如来

【蓮如上人の詩】

上人が手鼓を打つて謡われました。
 今、この地を「鼓畑」と言つて宝塔に
 御謡を刻んで後世にのこしている。
 帰路立ち寄り、村の者多く集まつて蓮
 如上人自ら御教化を施し、村の諸人浄

土真宗に帰依し村の者南紀の真宗
 ここにありと開き、この時、蓮如
 上人より救世音菩薩の功德を賜り、
 同行四五人を選び福勝寺に参詣す
 る。今日でもこの山道を御僧か谷
 と言い伝えられています。

蓮如上人の報恩の為六字名号御
 染筆あらせられ、ご本尊・千手觀世
 音菩薩の宝前に納められ、今に4
 百数十年を経て目下厳然と福勝
 寺に伝えられています。是即滅後
 の利益益々、さかんに自他門徒各
 心を浄土に傾け、念仏を信樂する
 時節到来を待ち賜い、参詣の諸人
 救世觀世音菩薩の御慈悲の功德の大
 恩・蓮如上人の功德、滅後の遺教
 私達を化育して止む事なき御恩に
 常に多くの参詣者に投げかけてお
 られます。(下津町史料編)

平成十二年に**名号堂**の御本尊
 南無阿弥陀仏の御軸を寝屋川市在
 住、南 桂子先生に御染筆の上御
 奉納頂きました。本年(平成十四年
 六月)には浄土真宗寺院からの御
 援助を賜り、雨戸がすっかり新装
 されました。紙面をお借りしまし
 て衷心より深く御礼申しあげます。
 花見には信者方々に御利用出来る
 ものとお待ち申しあげます。

続く

拾い読み

「曼曼羅維の人を畫き終えた作家・陳舜
 臣氏が次のよつなことを話されている
 「空海以前の遣唐使は、日本を律令国
 家化する目的をもつていた。律令国家
 として整備、悪く言えば粉飾するため
 に、急いで唐の文化の攝取につとめ
 表層的事であったことはやむをえない。
 空海は唐の文化を、底からさらえ
 るように、それを身につけ帰国し
 た。特権階級だけでなく、貧賤(ひ
 んせん)の子弟も学べる綜芸種智院
 を設立したのは空海の偉大さが最も
 よく現れている。小説はたえずそこ
 とを念頭に書いて書いた。」そつです。

自然と共生

やっぱり有機です！

- 有機化成：グアノ化成、サンミクロ化成、そだち化成
- 有機液肥：サンミクロ液肥、トップグリーン、バイオトップ
- 胚芽肥料：胚芽有機、胚芽燐酸
- 輸入肥料：貴陽696・888、硝酸化成555
- 有機ペレット：ペレボンF、胚芽ミックス
- 有機配合肥料：カンベキ864

株式会社 倉商

大阪市西区京町堀 1-3-22

電話06-6444-0289・FAX 06-6444-0911

坊主の独り言

問われている高付加価値とは何か

この度、全国民といつて過言でない人々を楽しませてくれた、ワールドカップ・サッカー大会。

何故に...と考へさせられました。車中でラジオから評論家竹村健一氏の日本のサッカー、日本のプロ野球と大リーグの違いについて論じておりました。

「大リーグほど日本のプロ野球は盛り上がりがないのは日本は企業をフランチャイズにしているが、大リーグは地域がフランチャイズになっていること、その中で阪神は弱くても(ファンに失礼) 人気があるのは大阪・神戸地域の阪神のイメージが大きいから。サッカーのJリーグが誕生したときはプロ野球が隆盛を極めていた。そのとき川淵チエアマンは斬新的に企業名の排除などの理念をもつて地域をフランチャイズにすることを実行した。今日日本サッカー界がワールドカップを成功させた所以である」との意味を話されてました」が、私は別の見方を持つた一人です。

野球について:

一、ファンは一人の英雄を追い求める。それがチームの勝利へ。

二、アメリカはアメリカカンディームを追い求めている心が野球にある。

三、野球は個人技に観客を沸かせる。

サッカーについて:

一、個人技と共にチームの連係プレーを通して勝利を願う楽しさ。

ジャパンドリーム(ベンチャーマー)の育ちにくい環境では、第二次大戦後の廃墟となった戦後のプロ野球には国民は今日のアメリカ国民のようなジャパンドリームの風土もあつた。この違いを仏教的に表現します。

座禅と密教の瞑想の違いのように感じるのはです。

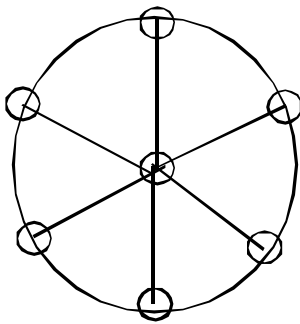
女子柔道の田村亮子選手が久留米市にある禅寺・梅林寺で禅修業され、そのときの状況を次のように言っています。

「調身」「調息」「調心」(体呼吸、精神をととのえるの意)の文字の前で精神を集中させたYAWARAちゃんは無心になる大切さを改めて感じた。心・技・体のうちで、柔道でも「心の部分が大事ですから」と大きな収穫を感じた様子。

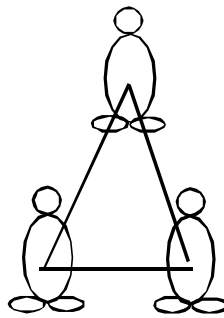
大リーグの長合(投手座禅の呼吸法を取り入れ一球一球に精神を集中させる)ことの素晴らしい子供達と実体験を通して語っていたのを思い出す。

この二人の体験は座禅の素晴らしい効用を語っています。

プロ野球は座禅的要素をもっていると考へる。これに対して、サッカーは座禅の要素より密教の瞑想的要素が大きく勝負を左右させると私は考へます。



上面



側面

チームが宇宙であり家族であり仲間である。即ちマンダラであると考えます。中心者の大日如来に代わりチームの理念が実在すると考へられます。優秀な素質を持ち、個人技を磨き、チームの連係プレーを見につける訓練が一人一人の瞑想と考へられます。密教的瞑想の阿字観は無我とは逆に自分

を正確に認識し、宇宙を感じる修法。

私達が己の心を護る楽しみをサッカーに置き換えます。

一、サッカーの楽しみ、生きがい。

二、チームの理念を聞く喜び。

三、心を制する楽しみ。

四、楽しみに節度を知る喜び。

今回のサッカーをテレビ観戦して特別の感情が湧き上がった。

私達が家庭、企業、教育、政治に求めているものが実は身近なところに感じました。

続く

短歌

山ひだに万年雪抱く峰々の

霧去りゆきて緑鮮やか

立山の景かくしゆく霧も晴れ

真夏の雪を踏みしめ歩む

谷澤規佐子作

山岳部であった学生時代、後立山連

峰からの眺めを思い出す。

編集後記

三重の御浜町の同窓会に二十数年ぶりに参加顔と名前が一致しなくても懐かしい兄弟姉妹。物語者が十数人おられる事が何と云っても悲しい。二年後の再会を恩師喜田先生をはじめ皆さんと約束、名残惜しんで別れる。

二年間高野山大学、大学院で学んだ事が自分を知るに大きな収穫だった。今後は書にじっくり取り組む決意を新たにす。

合掌